

ながおかペイ 24日開始

長岡市、地域通貨の実証実験 利用者にポイント付与

長岡市は、地域経済の活性化とデジタル化の推進に向け、独自のデジタル地域通貨「ながおかペイ」の実証実験を24日に始める。スマートフォンなどに専用アプリを入れると、飲食店など市内の取扱店で支払いに使える仕組み。来年1月末までのキャンペーン期間に利用者、取扱店の拡大を図り、利用傾向などを分析し

た上で4月以降に本格稼働させる考えだ。
ながおかペイは、専用ア



長岡市独自のデジタル地域通貨「ながおかペイ」の説明をする磯田達伸市長＝31日、アオーレ長岡

プリをスマホなどにインストールして使う。取扱店で専用画面を提示して現金をチャージし、店側に読み取ってもらって決済する。

長岡市共通商品券協同組合や市などをつくる「長岡市デジタル地域通貨協議

会」が運営する。取扱店は10月28日現在で飲食業やホテル、美容業、一部コンビニなどの32店舗となっており、年度内に50店舗を目指す。

利用者にはキャンペーン期間中、チャージした金額の30%を、3千円(3千円相当)を上限に付与。期間後は決済額100円ごとに1円の付与を予定する。

店側には期間中の決済額の5%を、5万円を上限に還元する。このほか、店側が負担するサービス利用料(月額1430円)を、3月末まで無料にする。

事業は内閣府のデジタル田園都市国家構想推進交付金などの対象となっている。システム構築やキャンペーン経費などの事業費計約5800万円には、国交付金を全額充てる見込み。市は1月末までの購買状況や利用傾向を経済産業省などと分析し、4月以降の本格稼働に生かす考えだ。

10月31日の記者会見で磯田達伸市長は「スマホ決済で簡単に買い物ができ、ポイントが付与される利便性が加わると、地域内での経済循環の実現につながる」と述べた。